

PORTABLE PA SYSTEM

STAGEPAS 600i

取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータブルPAシステム STAGEPAS 600iをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。STAGEPAS 600iは、パワードミキサーと2台の専用スピーカーで構成されたオールインワンのPAシステムです。STAGEPAS 600iのさまざまな機能を十分に活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

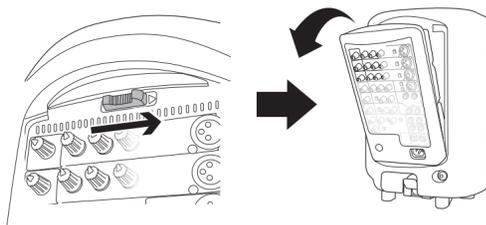
主な特長

- あらゆるパフォーマンスをサポートする出力 600W のパワーアンプ。
高品位でパワフルなサウンドを実現する 10 インチ 2way バスレフ型スピーカー。
さまざまな入力に対応する 10ch ミキサー (4 モノラルマイク/ライン + 3 ステレオライン)。
生演奏やボーカルに最適な SPX グレードの高品質なリバーブ。
不快なハウリングを自動的に抑えるフィードバックサプレッサー。
iPod/iPhone のデジタル接続と充電に対応した USB 端子。
チャンネルごとに音作りが可能な 3 バンドイコライザー。

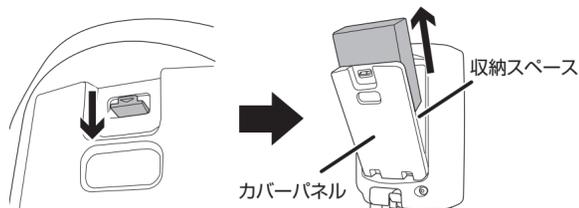
クイックスタートガイド

スピーカーとミキサーをつなぐ

- 1 ミキサーのロックを下の図のように矢印の方向へスライドさせて、スピーカーからミキサーを取り外します。

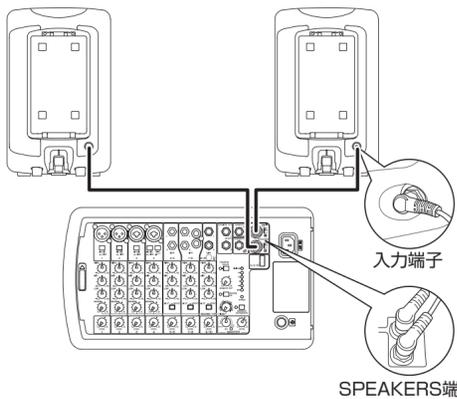


- 2 もう一方のスピーカーのカバーパネルを開けて、中の箱を取り出します。箱の中にはスピーカーケーブル2本と電源コード1本が入っています。



NOTE 箱を取り出したあとは、収納スペースに電源コード、スピーカーケーブル、取扱説明書(本書)、マイク(別売)などを収納できます。

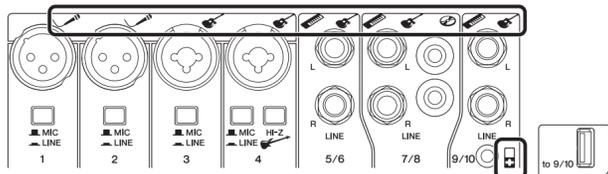
- 3 スピーカーとミキサーを接続します。付属のスピーカーケーブルを使って、ミキサーのSPEAKERS端子(赤)とスピーカーの入力端子(赤)を接続します。スピーカーケーブルは下の図のように奥までしっかり差し込んでください。



注意 必ず付属のスピーカーケーブルをお使いください。他のケーブルを使うと、発熱やショートの原因になります。

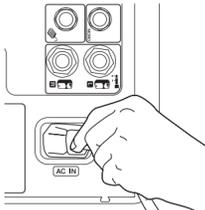
ミキサーにマイク/楽器/オーディオ機器をつなぐ

- 4 マイクや楽器などを、ミキサーの入力端子に接続します。ミキサー上のイラストや、カバーパネルの接続例を参考にしてください。

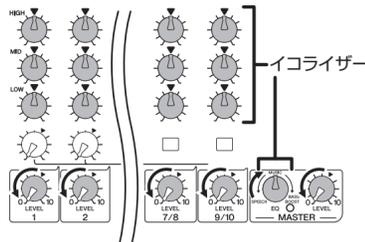


スピーカーから音を出す

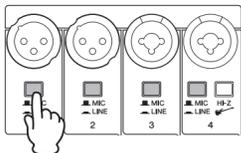
- 5 付属の電源コードを接続します。先にミキサーのAC IN に接続してから、コンセントに接続します。



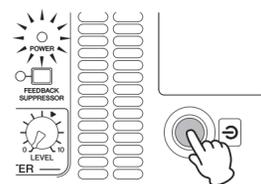
- 6 MASTER LEVEL (赤のつまみ)とLEVEL (白のつまみ)を「0」に下げます。イコライザー (緑のつまみ)をセンター位置「▼」や「MUSIC」に合わせます。



- 7 マイクを接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチはMIC (■)に、楽器やオーディオ機器などを接続したチャンネルはLINE (▲)にします。



- 8 楽器やオーディオ機器などの電源をオンにしてから、ミキサーの電源をオンにします。POWER LEDが点灯します。



- 9 MASTER LEVELを「▼」の位置に合わせます。



- 10 マイクや楽器で音を出しながら、LEVELで各チャンネルの音量を調節します。



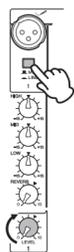
- 11 MASTER LEVELで全体の音量を調節します。音が出れば、準備は完了です。音が出ない場合は、裏面の「困ったときは？」のチェック項目をご確認ください。

NOTE 電源をオフにするときは、スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、ミキサー→楽器やオーディオ機器の順で電源をオフにしてください。

音量が大きすぎたり、小さすぎたりするときは？

音量が大きすぎるとき
いったんLEVELを「0」に下げます。MIC/LINEスイッチをLINE(▲)に切り替えてから、徐々にLEVELを上げて音量を調節します。

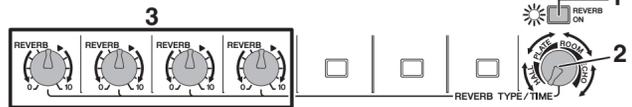
音量が小さすぎるとき
いったんLEVELを「0」に下げます。MIC/LINEスイッチをMIC(■)に切り替えてから、徐々にLEVELを上げて音量を調節します。



リバーブをかける

STAGEPAS 600i はヤマハマルチエフェクター SPX シリーズと同クラスのリバーブ (残響音 / エコー) を内蔵しています。以下の手順でリバーブをかけることによって、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような音の広がりや響きが得られます。

- 1 REVERBスイッチを押してオンにします。オンのときにLEDが点灯します。
2 REVERB TYPE/TIMEのつまみの位置で、リバーブの種類と長さを設定します。つまみを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。
3 REVERBで各チャンネルのリバーブの量を調節します。必要に応じて手順2と3を繰り返し、最適なかかり具合を調節します。



ミキサーの各部の名称と機能

- 1 マイク/ライン入力端子(チャンネル1~4)
マイク、ギター、電子楽器、オーディオ機器などを接続します。チャンネル3と4はXLR、フォンの両プラグに対応したコンボ端子です。
2 MIC/LINEスイッチ(チャンネル1~4)
マイクなど入力信号のレベルが低い機器を接続したチャンネルはMIC(■)にします。電子楽器やオーディオ機器など入力信号のレベルが高い機器を接続したチャンネルはLINE(▲)にします。
3 Hi-Zスイッチ(チャンネル4)
電池を使わないエレクトリックアコースティックギターやエレクトリックベースなどの、パッシブピックアップの楽器を接続するときにスイッチをオンにすると、DI(ダイレクトボックス)なしで直接ミキサーに接続できます。この機能はフォーンでの入力時のみ有効です。
4 ライン(ステレオ)入力端子(チャンネル5/6、7/8、9/10)
電子楽器、エレクトリックアコースティックギター、CDプレーヤー、ポータブルオーディオプレーヤーなどラインレベルの機器を接続します。フォーン、RCAピン、ステレオミニのプラグに対応しています。
NOTE チャンネル7/8でフォーン端子とRCAピン端子に機器が同時に接続された場合は、フォーン端子が優先され、チャンネル9/10でフォーン端子とステレオミニ端子に機器が同時に接続された場合は、ステレオミニ端子が優先されます。もう一方の端子に接続された機器の信号はミュートされます。チャンネル9/10には⑩のiPod/iPhoneからの信号が常にミックスされます。

- 12 イコライザーつまみ(HIGH、MID、LOW)
3バンドイコライザーで、各チャンネルの高音域(HIGH)、中音域(MID)、低音域(LOW)を調節します。つまみをセンター位置(▼)にするとフラットな特性となります。つまみを右に回すとその音域が強調されます。ハウリングする場合は、少し左に回してその音域を抑えます。

- 13 REVERBスイッチ/LED
スイッチをオンにするとLEDが点灯して、リバーブ(残響音/エコー)をかけることができます。電源を入れたときは、オフの状態になっていない(他のスイッチとは異なる)このスイッチはロックしません。

- 14 REVERB TYPE/TIMEつまみ
リバーブの種類と長さを設定します。つまみを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。
HALL: ホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブです。
PLATE: 鉄板の響きをシミュレートしたリバーブです。硬めで明るい残響感が得られます。
ROOM: 小さな空間(部屋)の響きをシミュレートしたリバーブです。
ECHO: ボーカル用途に最適なエコーです。
15 REVERBつまみ(チャンネル1~4)
⑬のREVERBスイッチがオンの状態で、各チャンネルのリバーブの量を調節します。

- 16 ST/MONOスイッチ(チャンネル5/6、7/8、9/10)
ST (STEREO)(■)にすると、L(左)とR(右)の信号がそれぞれ左右のスピーカーに割り振られて出ます。MONO(▲)にすると、LとRの信号がミックスされて左右どちらのスピーカーからも同じ音が出ます。ギターやモノラル出力のキーボードなど音源がステレオでない場合にMONO(▲)にすれば、ステレオ入力端子を複数のモノラル端子として活用できるので便利です。

- 17 LEVELメーター
SPEAKERS L/R端子から出力される信号のレベルを表示します。
注意 LIMITER LEDが長い間点滅し続けるほど大音量でお使いになると、内蔵のパワーアンプに過大な負担がかかり、故障の原因になります。信号の最大入力時に一瞬点灯する程度以下になるように、MASTER LEVELつまみで音量を下げてください。

- 18 POWER LED
電源スイッチを押してオンになると点灯します。
19 FEEDBACK SUPPRESSOR(フィードバックサプレッサー)スイッチ/LED
スイッチをオンにするとLEDが点灯して、ハウリング(フィードバック)を自動的に抑えることができます。(7バンドのノッチフィルターが動作します。このスイッチまたは電源スイッチをオフにすると、ノッチフィルターはリセットされます。)

- 6 MONITOR OUT端子
モニター用の(パワード)スピーカーなどを接続します。チャンネル1~9/10の信号がミックスされて出力されます。出力レベルは⑩のMONITOR OUTつまみで調節します。L(MONO)端子だけを使うと、LとRの信号がミックスされて出力されます。
9 USB端子
iPod/iPhoneをUSBケーブルで接続すると音楽再生と充電ができます。iPod/iPhoneからの音楽信号はチャンネル9/10にミックスされますので、チャンネル9/10のLEVELつまみで音量を調節します。また、この端子からUSBデバイスへの5V電源供給ができます。ただし、iPod/iPhone以外のUSBデバイスからのデジタル再生には対応していませんので、チャンネル9/10のステレオミニ端子などをお使いください。

- 6 SUBWOOFER OUT端子
パワードサブウーファーを接続します。モノラル信号が出力されます。この端子が使われているときは、SPEAKERS L/R端子への120Hz以下の信号がカットされます。出力レベルは⑩のMASTER LEVELつまみと連動しています。

- 7 REVERB FOOT SW端子
フットスイッチ(ヤマハFC5などのアンラッチタイプ)を接続します。リバーブのオン/オフを足元で切り替えることができます。ワンマンパフォーマンスのときに便利です。

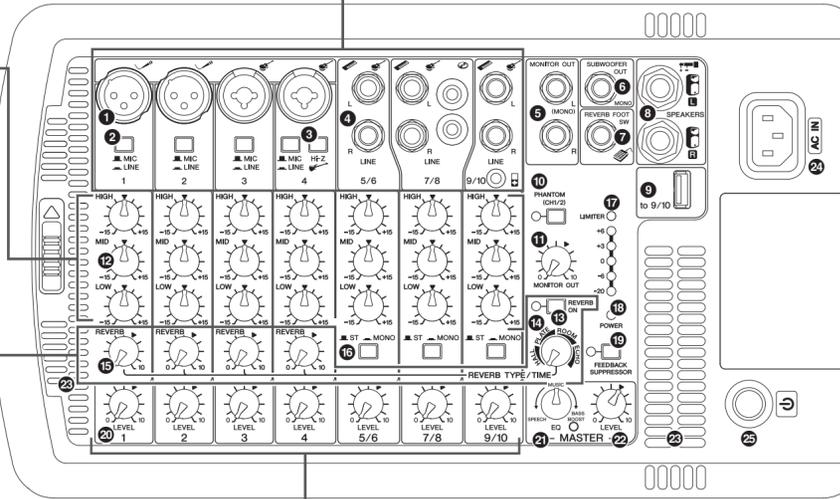
- 8 SPEAKERS L/R端子
付属のスピーカーケーブルを使って、専用スピーカーと接続します。

注意
・iPod/iPhoneの接続には、純正のApple DockコネクタUSBケーブルをお使いください。
・USBハブは使用しないでください。
NOTE
iPhoneを接続している場合、電話やメールを受信すると、その通知音がスピーカーから出ますので、iPhoneの「機内モード」をオンにしておくことをおすすめします。

- 10 PHANTOM (CH1/2)スイッチ/LED
スイッチをオンにすると、LEDが点灯してチャンネル1と2にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクやDI(ダイレクトボックス)に電源供給するときは、このスイッチをオンにしてください。

注意
本体および外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の点にご注意ください。
・ファンタム電源が不要なときや、チャンネル1と2にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、スイッチをオフにする。
・スイッチをオンにしたまま、チャンネル1と2でケーブルの抜き差しをしない。
・チャンネル1と2のLEVELを最小にしてから、スイッチをオン/オフする。

- 11 MONITOR OUTつまみ
⑥のMONITOR OUT端子から出力される信号レベルを調節します。MASTER LEVELつまみの影響は受けません。



- 20 LEVELつまみ
各チャンネルの音量を調節します。ノイズを減らすために、使わないチャンネルのつまみは最小「0」にしておいてください。

- 21 MASTER EQ(イコライザー)つまみ
全体の音の周波数バランスを調節します。センター位置(MUSIC)を基本として左に回すと低音域が抑えられスピーチに適した特性になります。右に回すと低音域がブーストされ再生音源などに適した特性になります。さらに右に回していくと低音ブースト機能がオンになってLEDが点灯し、より迫力のある低音が得られます。

- 22 MASTER LEVELつまみ
SPEAKERS L/Rから出力される音量を調節します。各チャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。

- 23 通風孔
ミキサー内部の冷却ファン用の通風孔です。使用時はふさがないようにしてください。

- 24 AC IN端子
付属の電源コードを接続します。

- 25 (電源)スイッチ
電源をオン(▲)/オフ(■)します。
注意
・電源のオン/オフを連続して素早く切り替えると誤動作の原因になることがありますので、電源をオフしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。

困ったときは？

電源が入らない

- 電源コードを奥までしっかり差し込みましたか？

突然、電源が切れた

- ミキサーの通風孔をふさいでいませんか？ 放熱が不十分でミキサーに熱がこもると、過熱保護のため電源が切れます。冷却用の通風を確保してから、再度電源を入れてください。

音が出ない

- ミキサーの SPEAKERS 端子とスピーカーの入力端子をスピーカーケーブルで接続しただけですか？
- スピーカーケーブルを奥までしっかり差し込みましたか？
- 本体スピーカー以外のスピーカーをミキサーの SPEAKERS 端子に接続していませんか？
- 本体スピーカー以外のスピーカーをミキサーの SPEAKERS 端子に接続していませんか？
- 付属のスピーカーケーブルを使っていますか？ 市販のケーブルでコネクターのハウジングが金属のものをお使いになると、コネクターが他の金属に接触した場合に、回線がショートして音が出なくなることがあります。
- POWER LEDが周期的に点滅していませんか？ スピーカーケーブルがショートしている場合があります。スピーカーケーブルが正しく接続されているか、傷がついていないかを確認してから、再度電源をオンにしてください。
- チャンネル 7/8 でフーン端子と RCA ピン端子の両方に接続していませんか？ またはチャンネル 9/10 でフーン端子とステレオミニ端子の両方に接続していませんか？

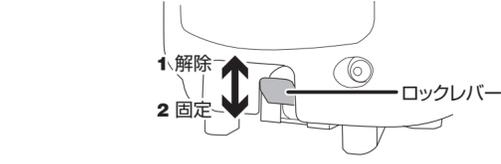
- POWER LEDが周期的に点滅していませんか？ スピーカーケーブルがショートしている場合があります。スピーカーケーブルが正しく接続されているか、傷がついていないかを確認してから、再度電源をオンにしてください。
- チャンネル 7/8 でフーン端子と RCA ピン端子の両方に接続していませんか？ またはチャンネル 9/10 でフーン端子とステレオミニ端子の両方に接続していませんか？
- チャンネル 7/8 ではフーン端子、9/10 ではステレオミニ端子が優先されます。
- POWER LEDが連続して点滅していませんか？ 内蔵のワアンプに過大な負荷がかかると、保護のためアンプがミュートして音が出なくなります。しばらくすると自動復帰します。

音が歪んだり、雑音が入る

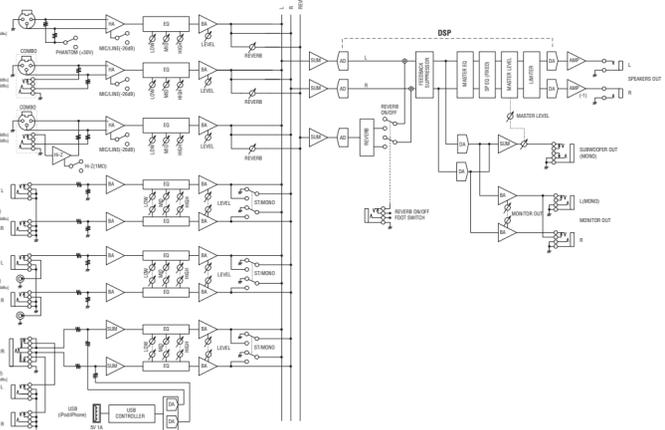
- 各チャンネルの LEVEL や MASTER LEVEL が上がりすぎていませんか？

スピーカースタンドへの取り付け

- ロックレバーを上にした状態(解除)でスタンドに取り付けます。
- ロックレバーを下に下げてスタンドに固定します。



ブロック図



仕様

■ 一般仕様

最大出力(SPEAKERS L/R)

340 W + 340 W/4 Ω @ダイナミック at 1 kHz
280 W + 280 W/4 Ω @10 % THD at 1 kHz
≥230 W + 230 W/4 Ω @1 % THD at 1 kHz

周波数特性

-3 dB, +1 dB @40 Hz～20 kHz、1 W 出力/4 Ω (Eq and SP EQ を除く) (SPEAKERS L/R)
-3 dB, +1 dB @40 Hz～20 kHz、+4 dBu 10 kΩ Load (MONITOR OUT)

全周波数歪率

≤0.5 % @20 Hz～20 kHz、+11 dBu 10 kΩ (MONITOR OUT)

ハム&ノイズ(Re=150 Ω, MIC/LINEスイッチ=MIC)

≤-11.3 dBu 入力換算ノイズ (CH1～4)

≤-58 dBu 雑音ノイズ (SPEAKERS L/R)

クロストーク(1 kHz)

≤-70 dBu 入力側

ファンタム電源

+30 V (CH1/2)

質量

25.4 kg (スピーカー+10.8 kg x 2 + ミキサー+3.8 kg)

同梱品

本体(スピーカー(MODEL 600S)2台、ワアードミキサー1台)、ケーブル(ケーブル1枚、電源コード(2m)1本、スピーカーケーブル(3m)2本、消り止めパッド12枚、取扱説明書(本書))

電源電圧

100 V - 240 V、50 Hz/60 Hz

接続

消費電力
35 W (Idle)、100 W (1/8出力)

35 W出力(SPEAKERS L/R)特性

最大可変歪(±15 dB)

HIGH 8 kHz シェルビングタイプ

LOW 2.5 kHz ビーンングタイプ

MID 100 Hz シェルビングタイプ

対応iPod/iPhone (2012年8月現在)

iPod classic、iPod touch (第1～第4世代)、iPod nano (第2～第6世代)、iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone
最新の対応モデルについては下記URLをご参照ください。

http://proaudio.yamaha.co.jp/

■ 専用スピーカー (MODEL 600S)

エンクロージャー

2way/バスレフ型

スピーカーユニット

LF: 10" (25 cm) コーン

HF: 1.4" (3.56 cm) コンプレッションドライバー

クロソーパー周波数

2.8 kHz

再生周波数帯域

55 Hz～20 kHz (-10 dB)

最大出力音圧レベル

129 dB SPL (実測値ピーク IEC ノイズ@1m)

指向角

水平90° 垂直60°

*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

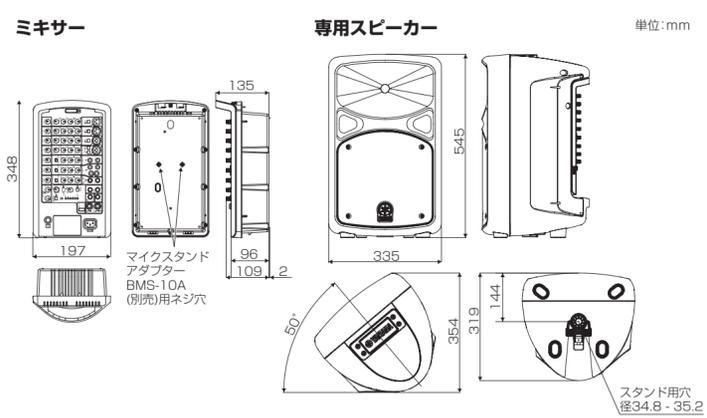
入力仕様

入力端子	MIC/ LINE	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル			端子仕様	
				感度	ノミナル	最大ノンクリップ		
CH IN 1-2	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLR-3/31タイプ	
	LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu		
CH IN 3-4	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLRコンボ	
	LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu		
	Phone			MIC	10 kΩ	150 Ω Lines		-50 dBu
CH IN 5/6	LINE	(Hi-Z 1 MΩ)	(Hi-Z 10 kΩ)	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フーン*	
	Phone	-	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu		+22 dBu
CH IN 7/8	Phone	-	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フーン*
	Pin	-	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	RCAピン
CH IN 9/10	Phone	-	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フーン*
	Mini	-	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	ステレオミニ

出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル				端子仕様
			ノミナル	最大ノンクリップ	Typ at THD+N 10%	ダイナミック	
SPEAKERS OUT [L,R]	<0.1 Ω	4 Ω Speakers	62.5 W	230 W	280 W	340 W	フーン*
MONITOR OUT [L,R]	600 Ω	10 kΩ Lines	+4 dBu	+20 dBu	-	-	フーン*
SUBWOOFER OUT	150 Ω	10 kΩ Lines	-3 dBu	+1.7 dBu	-	-	フーン*
0 dBu=0.775 Vrms、0 dBV=1 Vrms							
フーン*: アンバランス型							

寸法図



安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様ほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

- 記号表示について
この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

- 「警告」と「注意」について
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	この表示の欄は、「傷害を負う可能性は物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

- 接続**
接地接続を確実に行なう。電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接地接続してください。確実に接地接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。
- 分解禁止**
この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしないでください。感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

- 水に注意**
この機器の上に花壇や薬品など液体の溜ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**
感電のおそれがあります。

- 火に注意**
この機器の上にごろごなど火気のあるものを置かない。ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。
- 異常に気づいたら**
下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードプラグがたんだ場合
 - 製品から異常なにおいや煙が出た場合
 - 製品の内部に異物が入った場合
 - 使用中に音が出なくなった場合
そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

- ミキサーを落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。**
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

- 注意**
電源/電源コード
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

- 設置**
不安定な場所に置かない。水平であっても落下する危険性のある場所には固定せずに置かない。この機器が転倒または落下して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。
- 音が出ない状態ではこの機器を使用しない。**
音がわずんだ状態ではこの機器を使用しない。機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

- マイクなどのケーブルを引っ張らない。**
接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカーやミキサーが転倒して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

- 大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。**
聴覚障害の原因になります。
- マイクなどのケーブルを引っ張らない。**
接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカーやミキサーが転倒して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。**
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。**

- 携帯電話からの影響について**
この機器のすぐ近くで携帯電話を使用すると、この機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で携帯電話をご使用ください。
- （バスレフポート）から空気が出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。**
- 使用後は、必ず電源をオフにしましょう。**
- コネクターに関する注意**
XLRタイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです (IEC60268規格に基づいています)。
1: グランド (GND)、2: ホット (+)、3: コールド (-)

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。**
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。**

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、以下の内容をお守りください。

- 製品の取り扱い/お手入れに関する注意
 - 直射日光のある場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ。また、ほこりや振動が多いところで使用しないでください。この機器のケーブルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

- この機器の上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のケーブルが変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ペンジンやシンナー、洗剤、化学そうじなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

- 機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れたり数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

- イコライザーやLEVELツマミをすべて最大には設定しないでください。接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。

- ノイズの発生によるスピーカーの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にミキサーの電源を入れてください。また、電源を切るときは、最初にミキサーの電源を切ってください。

- 保護回路(ポリスイッチ)**
スピーカーシステムには、自動復帰型ポリスイッチが内蔵されているため、過電流による故障から高音域ドライバーを保護します。スピーカーシステムのカビネットから高音域が出力されない場合は、すぐにミキサーの電源を切り、ポリスイッチをリセットする(冷やす)ために、2～3分そのままでしてください。出力を下げてから再度電源を入れ、高音域ドライバーの出力を確認してください。続けてスピーカーを使用する場合は、ポリスイッチが作動しないレベルで使用してください。

- 専用スピーカー(MODEL 600S)には、STAGEPAS600以外のミキサーを接続しないでください。接続した機器によっては、発振したり、スピーカーを破損したりする原因になることがあります。

保証	風通しの悪い狭いところに押し込めたりしない。ミキサーまたはミキサーを取り付けたスピーカーを、壁やほかの機器から左右に30cm、後ろに30cm、上に30cm以上離してください。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。
禁止	スピーカーを横置きする場合は、ミキサーをスピーカーから取り外す。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

- 禁止**
スピーカーの底面を持って運搬しない。スピーカーの底面に手をはさんで、お客様やほかの方がけがををしたりする原因になります。

- 禁止**
塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

- この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。**
ケーブルをいたためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

- ミキサーを電源コンセントの近くに設置する。**
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続	ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切り切ったりする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。
	ミキサーのSPEAKERS端子には、必ず付属のスピーカーケーブルを使って、スピーカー(MODEL 600S)を接続する。それ以外のケーブルおよびスピーカーを使うと、火災や故障の原因になることがあります。

- 手入れ**
この機器の手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

- 取り扱い**
ミキサーの通風孔やパネル、スピーカーのバスレフポート(前面の穴)のすき間に手や指を入れない。お客様がかげがをするおそれがあります。

- ミキサーの通風孔やパネル、スピーカーのバスレフポート(前面の穴)のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。**
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

- この機器の上のつり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入力端子などを無理な力を加えない。**
この機器が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

- 大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。**
聴覚障害の原因になります。

- マイクなどのケーブルを引っ張らない。**
接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカーやミキサーが転倒して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。**
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。**

- 機能や取り扱いに関するお問い合わせ**
ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター
0570-050-808
※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。
上記番号でつながない場合は **03-5652-3618** (土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
受付 月曜日～金曜日 11:00～19:00
FAX **03-5652-3634**
オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

- 修理に関するお問い合わせ**
ヤマハ修理ご相談センター
0570-012-808
※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。
上記番号でつながない場合は **053-460-4830**
受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
FAX **03-5762-2125** 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)
06-6649-9340 西日本(北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

- コネクターに関する注意**
XLRタイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです (IEC60268規格に基づいています)。
1: グランド (GND)、2: ホット (+)、3: コールド (-)

お知らせ

- 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ**
この製品は、JIS C 61000-3-2に適合しています。
- iPod™、iPhone™
- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は、米国外およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
- **取扱説明書の記載内容に関するお知らせ**
この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

- **取扱説明書の記載内容に関するお知らせ**
この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

- 専用スピーカー(MODEL 600S)には、STAGEPAS600以外のミキサーを接続しないでください。接続した機器によっては、発振したり、スピーカーを破損したりする原因になることがあります。

保証書	本書は、本書記載内容で無償修理を行う事を約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)をあわせてご提示ください。(詳細は下項をご覧ください)	
持込修理		
品名	PORTABLE PA SYSTEM	
品番	STAGEPAS 600I	
※シリアル番号		
保証期間	本 体 お買上げの日から1ヶ月間	
※お買上げ日	年 月 日	
お 客 様	〒□□□□□□	〒□□□□□□
	ご住所	
	お名前	様
	電話	()
ご販売店様へ	※印刷は必ずご記入ください。	
株式会社ヤマハミュージックジャパン PA 営業部		
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 41 番 12 号 KDX 箱崎ビル 1F TEL 03-5652-3850		

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意に従った使用状態)で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご購入後、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合せください。
- 保証期間内で多次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買上げの日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
- お客様の ご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

- この保証書は本書に示した期間、条件の範囲において無償修理をお約束するものではありません。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合せください。
- ※ご購入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致しません。取得した個人情報適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。
- ※その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

- お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

- 保証書**
本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

- 保証期間**
保証書をご覧ください。

- 保証期間中の修理**
保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理に伺いするのかは、製品ごとの定められています。詳しくは保証書をご覧ください。

- 保証期間経過後の修理**
ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品などについては、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

- 修理に関するお問い合わせ**
ヤマハ・プロ